

2022 年度事業報告

(2022. 4～2023. 3)

▽会員数 219 名、賛助会員 11 団体 (2023 年 3 月 31 日現在)

▽月例研究会 7 回開催 (オンライン開催)

* : 発表者

2022 年 4 月 9 日 品川明「しじみの話～お椀の中に地球がみえる日本人としじみ、その味わいと価値」

6 月 11 日 中澤弥子「学校給食、SCHOOL MEALS についての食文化および食育の視点からの調査研究の試み」

7 月 9 日 増田真祐美「江戸に住む武士の食事記録にみる日常食」

9 月 10 日 東四柳祥子*, 石川尚子, 江原絢子, 遠藤由美子, 大久保洋子, 伊尾木将之, 増田真祐美「2021 年度食文化研究の動向」

12 月 10 日 岩間一弘「中国料理と世界史・日本史研究」

2023 年 2 月 11 日 上村 知春「エチオピア北西部、エチオピア正教会信徒の食生活」

3 月 11 日 伊尾木将之「婦人雑誌に掲載された正月料理 - 主婦の友を中心に -」

▽第 35 回総会 日時 2022 年 4 月 9 日

Zoom によるオンラインで開催された。出席者 33 名、委任状 28 名、議決権行使書 5 名、合計 66 名の出席を得て、議事すべてが承認された。

▽夏期特別研究会 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止した。

▽研究発表大会の開催 日時 2022 年 11 月 6 日 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため Zoom にて開催した。

【研究発表】

* : 発表者

1. 手塚貴子「学生が伝統野菜の応援活動を通じて育む食文化継承意識の一考察-石川県金沢市加賀れんこんを題材として-」

2. 川嶋比野*, 数野千恵子「染付皿の市場調査における青色の分布」

3. 鎌谷かおる*, 上田朋佳, 三浦加帆, 渡邊淳司, 和田有史「食材と調味料の地域性を考えるー『日本の食生活全集』を用いた食材・調味料データベースの活用」

【石川松太郎食文化研究奨励賞】 畑有紀氏に授与

▽「会誌 食文化研究」第 18 号発行 2022 年 12 月 25 日 300 部

○研究論文 中田吉英「近世から近代の京都商家における仏事供応食の変遷と仕出し屋との関係」

○研究ノート 平田昌弘「日本乳食文化の型と普及形態の類型分類-インターネット検索と帯広畜産大学学生レポートの事例をもとにして-」

○資料 荒尾美代「二條城行幸時の饗応献立における南蛮菓子-新史料を用いて-」

渡壁奈央, 河野知歩, 石橋ちなみ, 岡田玄也, 杉山寿美「『元就公山口御下向の節饗応次第』に記された戦国期毛利氏の饗応献立の再現とその活用」

宇都宮由佳, 伊尾木将之, 瀬尾弘子, 江原絢子, 大久保洋子, 中澤弥子「年末正月の行事と食の実態調査-2017 年と 2019 年の比較研究-」

藤本勇二, 玉城恵子, 小笠原有沙「小学校での昆布ロードをテーマにした交流学習の実践-学校給食と ICT でつなぐ-」

○特別寄稿 太田泰弘「『食名』の研究、余禄 2」

○2021 年度石川松太郎食文化研究奨励賞受賞者の研究概要と現在の研究活動報告 謝春彦

○文献紹介 キッコーマン株式会社 100 年史編集委員会編集『キッコーマン株式会社百年史』山下弘太郎, 権代美重子著『日本のお弁当文化』河野一世, 大竹道茂著『江戸東京野菜の物語 伝統野菜でまちおこし』露久保美夏, 安室知著『餅と日本人』大久保洋子

○食文化研究の動向 「2021 年度における食文化研究の動向」 東四柳祥子

○特別企画 「コロナ禍における食生活-一部会員による記録集(2020. 1～2021. 9)-」[コロナ禍における食生活]企画委員会

▽会報の発行 8 月を除く計 11 回

▽関係文献・資料情報の紹介 No.415～425

▽共同研究の推進など会員の研究発展に関する企画 「正月の行事食に関するアンケート調査」(和食会議との連携), 18 号会誌に調査結果を資料として報告および 2023 年の正月の行事食に関するアンケート調査実施。